

高木監督(唐津市出身) 教育映画祭で3作品優秀賞

SNSの部落差別 ドラマで実態描く

東京都
唐津市

唐津市出身の映画監督高木裕己さん(75)＝東京都在住＝が製作したSNS上の部落差別などをテーマにした教育映画3作品が、今年の教育映画祭で最優秀賞(4作品)に次ぐ優秀賞に選ばれた。29日に都内で表彰式が行われる。



「いつの間にか拡散 ネットに潜む部落差別」の一場面



今年の教育映画祭で3作品が優秀賞に選ばれた高木裕己監督

入賞作品は「いつの間にか拡散 ネットに潜む部落差別」(中学校部門)、「どう活かす? 女性支援新法 女性の人権侵害を防ぐ」(高等学校部門)、「反対する理由 結婚差別を乗り越えて」(市民生活向け)。いずれも社会教育や学校教育の現場で活用されている。

このうち、「いつの間にか拡散」は、SNSや動画投稿サイトで拡散される

「ネットを差別なくすツールに」

部落差別の実態をドラマ仕立てで描いており、差別投稿の削除や差別に対抗する行動の重要性を訴える。

「どう活かす? 女性支援新法」は2024年4月に施行された新法を踏まえて、性犯罪や性暴力の実態と対処法を解説。「反対する理由」は、被差別部落出身者との結婚に対する根強い差別意識をテーマに、複数の事例を通じて差別の問題点と解決への道筋を描いている。

高木監督は「ネットを悪用した差別や人権侵害が深刻化している。ネットは差別をする道具にもなるが、同時に差別をなくすツールにもなる。それを中学生にも伝えていきたい」と思っている。

受賞3作品はDVDで販売しており、収録時間はいずれも21分。教育機関向けの価格は各6万8千円(税別)。問い合わせは映学社、電話03(3300)9129。(古賀史生)